土佐の住まい

土佐の住宅構法の歴史は熱い日射し日差しと台風との戦い

豊かな自然、そして厳しい自然の中で培われてきた土佐の家には、自然と共生するための先人たちが築いてきた伝統的工法が生かされています。夏季の高い湿度、強い風（台風）、激しい雨、射すような日射しなどに対処する高い技術と自然素材の活用は、土佐の住まいの原点です。

土佐の省エネルギー住宅を考えるにあたって、先人たちが培ってきた伝統的工法を生かしつつ、要所々を抑えた家づくりが大切です。

室戸

室戸市吉良川町は、土佐漆喰と水切り瓦の連なる町家と「いしぐろ」と呼ばれる防風石塀を持つ。

奈半利

魚梁瀬杉、捕鯨、製紙で繁栄をみせた奈半利町は、切妻平入り、桟瓦葺きの形式が特徴で、低くおさえられた棟高が厳しい気象条件に対峙してきたことを物語る。

水切り瓦

直接雨がかかるのを防ぎ、また、雨水が溜まらないよう小さな庇で漆喰壁を保護している。

いの町

製紙で繁栄したいの町（旧伊野町）は、重厚で建築的にも価値の高い町家を持つ。

通り屋

一陣の風が生活空間を通って外に出てゆく風の道（通り屋）。
住まいから暑し暑さを遠ざける。

深い庇

夏の日差しを遮り、冬の日差しを取り込む。

洗み地

自然の恵みを生活様式に取り組んでいる。（最近まで野菜などを洗っていた。）

漆喰（壁）

土佐では、台風や大雨の多いことから、調湿効果や脱臭効果に優れた漆喰壁が発達する。

左瓦

風雨の向きを考え、左瓦を用いる細やかな細工が施されている。（手前から風雨が入ってくるため外側（左写真）は左瓦となっている。）

夏障子（すのこ障子）

夏を快適に過ごす夏障子は、冬はふすまに取り替えられる。